

山本営農組合×近畿大学附属豊岡中学校・高等学校×イキモノ見つけ隊×コープこうべ

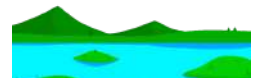
## 自然の教室が、みんなの学び場



コープこうべでは、地域の団体と一緒にさまざまな取り組みを進めています。今回は、但馬地域で地域問題を解決するため、ビオトープを作って管理や整備をしている山本営農組合と一緒に活動する方々とコープこうべのコラボイベント「ビオトープで生き物を探せ！」取材の取り組みについてお話を伺いました。



ビオトープは、ドイツ語の「Biotop」からきており、「Bio(バイオ：生物)」、「Top(トープ：場所)」を組み合わせた言葉で、「生き物が生息・生育する場所」という意味です。自然環境はもちろん、人工的に作られた池や草地、森なども含まれます。近年、生き物の保全などを目的に、ビオトープが注目されています。



### なぜ、ビオトープ？

**稲葉さん：**この地域も、高齢化などで農家の数が年々減り、耕作されなくなって荒れた田んぼがどんどん増えています。「これでは日本の昔からの風景がなくなってしまう！」と、危機感を感じていました。放置された田畑や地域の活性化についても考え、使われなくなった田んぼをビオトープにして、生き物を増やす取り組みを始めました。



農事組合法人 山本営農組合  
組合長 稲葉さん



近畿大学附属豊岡中学校  
吉沢さん

**吉沢さん**：ビオトープは、たくさんの人にとっての学びの場です。人は、「いろいろな生き物が住める環境にするにはどうしたらよいか」「生息する生き物を増やすためにはどうしたらよいか」を考えます。ビオトープについて、人が考えて取り組むからこそ、生き物が増え、子どもたちの学びにもなり、いい連鎖が起きるのだと思います。

## 「ビオトープの生き物を探せ！」が始まったきっかけ

**小田垣**：このイベントは、近畿大学附属豊岡高等学校の自然科学部(鶴部)とコープのつながりがきっかけで始まりました。「子どもに、地域の生き物の豊かさやコウノトリのことをもっと知ってほしい」という学生の思いから、鶴部と一緒に取り組み始めました。



第7地区本部 豊岡事務所  
小田垣



イキモノみつけ隊  
小田垣さん

**小田垣さん**：稲葉さんがビオトープ作りを始めたことを知り、管理を手伝い始めました。整備をして、たくさんの生き物が棲んでいることを知り、自分たちで生き物を探すようになったんです。「せっかくだし、ココで生き物を調べて学ぶ活動をしよう！」と、「イキモノみつけ隊」を結成しました。イベントのお手伝いを通して学生たちの活動を知り、つながりが生まれ、今では一緒にビオトープで生き物を調査しています。

いずれはこのビオトープで、子どもたちの声が響き渡るようにしたいねと、第2回目のイベントから「山本ビオトープ」で開催しています。



## 実際にイベントをしてみてもうですか？

**奥野さん**：子どもの頃はいろいろなものに興味があって、生き物に触れる機会も多いですが、大人になるとそういう機会もあまりなくなってしまいます。このイベントを通して、大人も子どもも生き物にもっと触れることで、たくさん学んでくれたら嬉しいです！



近畿大学附属豊岡中学校  
奥野さん



**吉沢さん**：そうですね！子どもたちは、すぐに飽きてしまうかな？と思っていましたが、生き物の採取後もたくさんの質問をしてくれました！話すことで、参加者には生き物の生態を学ぶ機会になるし、僕たち学生には"どうすればうまく人に教えられるのか"を考える機会になりました。参加者にも自分たちにもWIN=WINの貴重な体験で、僕も楽しく過ごすことができました。

**小田垣**：ビオトープに入るのをためらっていた子も、中高生と一緒に生き物を探しているうちに慣れて、最後は泥だらけ！（笑）「獲れた！」と嬉しそうに教えてくれました。この経験は、きっと大人になっても大切に思えます。自然が大切だと分かっているけど、体験しないとわからないこともあるので、幼少期にいろいろな体験をして、自然の大切さを学んでもらいたいですね。



**稲葉さん**：そうですね。興味のある人にどんどん参加してもらって、この景色をもっとたくさんの人に見てもらいたいです。私たちは、自分たちのできる範囲で、楽しみながらやれたらいいなと思い、場所を提供しているので、賛同する方々と一緒に活動できて、若い人たちにも参加してもらえて、嬉しいです。

## 今後はどんな活動をしたいですか？

**小田垣さん**：皆で頑張って維持・管理しているビオトープなので、いろいろな地域からココに来てもらって、たくさんの経験を持って帰ってもらいたいです。一緒に取り組んでくれている学生にも、経験したことを就職や進学で活かしてほしいし、将来「一緒にやって良かったな！僕も頑張ってビオトープをやってみようかな」とか「地域の取り組みを何か応援してみようかな」と考えてもらえたらいいなと思っています。



**吉沢さん**：僕は貴重な体験をさせてもらっています。小さな取り組みですが、各地域でこういう活動ができれば、他の地域にも広がり、外来種が減ることにもつながるので、こんな取り組みがあることを、自分の周りの小さなところからでも広めようと思います。

**奥野さん**：僕は、これからも生物の生態を調べ、外来種を取り除いて、このビオトープでタガメが棲みつけるような環境を作っていきたいですね。



**小田垣さん**：いいですね！これからも一緒に活動することで、生き物の種類が増え、ビオトープがよりよい環境になるようにしたいです。そして、ここが子どもたちの声が響くところになり、その子たちが大人になったとき、小さな頃の体験を次の世代に伝えたり、地域でやってきた経験で知識を広げ、もっと自然や生き物に興味をもつきっかけになってくれたらいいですね。

**小田垣**：参加者がたくさんの人に体験を伝え、また新しい人がイベントに来てくれたらいいですね。コープが関わることで地域活性化のちょっとした力になればいいなと思っています。他の地域の方にもどんどん体験してもらえたら嬉しいです。これからも地域の方々と一緒に、この取り組みを続けていきたいですね。





**稲葉さん：**この活動で、地域が少しでも明るくなり、生活の楽しみ方が増えるといいですね。今後この良い景色が消えないように、小さなことでもやっていきたいです。少しでも地域が活性化するように、体が動く限り続けていきたいですね。また、こうやって多様な世代が関わり何かをすることで、我々大人の活性化にもつながると考えています。

**小田垣：**このイベントは、コープこうべだけではできません。管理してくれている方々がいて、生き物の解説をしてくれる学生たちがいてくれるからこそ、このイベントができています。それぞれの得意なことを一緒に取り組んで活かすことで、地域を盛り上げる活動ができていると思います。



子どもたちが大きくなった時に「あの経験は楽しかった！」「あれがあったから、地域が好きになったな」と思ったり、将来但馬で「地域のために頑張ろう」という気持ちになってくれたりしたら嬉しいですね。



### ～第7地区本部 岡田本部長からひとこと～

田んぼは一度放棄地になると、元に戻すのに数年かかると言われています。ビオトープを整備することで、多種多様な生き物が棲みつき、自然の生態系を維持しています。また、田んぼに戻す際、回復にかかる時間も早くなります。さらに、山に棲む動物と人との緩衝地帯になり、食害なども減少するとお聞きしました。ビオトープが生き物に暮らしやすく自然環境を作り出していることを学びました。秋にもビオトープで、生き物探しのイベントを開催します。興味のある方は、ぜひご参加ください。

